

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

「探究的な学習の過程」をより一層質的に高めていくこと。

今回の学習指導要領改訂で重視される「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点は、子供の学びとしては一体として実現されるものであり、それぞれ相互に影響し合うものです。それぞれのバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが求められます。

(1) 「主体的な学び」の視点

学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び。課題設定と振り返りが重要です。

- 課題設定：児童が自分の事として課題を設定します。
- 振り返り：自らの学びを意味付けたり、価値付けたりして自覚し、他者と共有したりしていきます。

(2) 「対話的な学び」の視点

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び。異なる多様な他者と力を合わせて課題解決に向かうことが欠かせません。

- 異なる多様な他者と対話することの三つの価値
 - ・他者への説明による情報としての知識や技能の構造化
 - ・他者からの多様な情報収集
 - ・他者とともに新たな知を創造する場の構築と課題解決に向けた行動化への期待など
- 協働的な学習
 - ・その過程を通じて、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということが重要です。
 - ・一人一人が学習の見通しをもったり、振り返ったりすることが求められます。
- 一人でじっくりと自己の中で対話すること
- 先人の考えなどと文献で対話すること
- 離れた場所を ICT 機器などでつないで対話すること など

(3) 「深い学び」の視点

探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められます。

- 探究的な学習の過程では、各教科等で身に付けた「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を活用・発揮する場面を何度も生み出すことが期待できます。
 - 各教科等で身に付けた「知識及び技能」は関連付けられて概念化
 - 「思考力、判断力、表現力等」は活用場面と結び付いて汎用的なものとなり、多様な文脈で使えるものとなることが期待できます。

2 「総合的な学習の時間における見方・考え方」について

探究的な見方・考え方：各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方

【探究的な見方・考え方に含まれる二つの要素】

- (1) 各教科等における見方・考え方を総合的に働かせる
 - 各教科等の特質に応じた見方・考え方を、探究的な学習の過程において、適宜必要に応じて総合的に活用します。
扱う対象や解決しようとする方向性などに応じて、児童が意識的に活用できるようになることが大事です。
- (2) 総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせる
 - 特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉えることです。
 - 課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方です。

総合的な学習の時間における学習評価のポイント

1 総合的な学習の時間における評価の観点について

3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】(例)

評価の観点
よりよく問題を解決する資質や能力
学び方やものの考え方
主体的、創造的、協同的に取り組む態度
自己の生き方



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

※総合的な学習の時間の目標（第1の目標）を踏まえた評価の観点の例

2 「知識・技能」の評価

(1) 概念

具体的な知識や個別的な技能が主体的・協働的な課題解決を通して相互に関連付けられ、統合されることによって、概念として形成されていることを評価します。

(2) 技能

探究的な学習の過程の各学習活動で用いる個別的な手順の実行に関する技能です。

例「・・・収集した情報と情報との関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。」など

3 「思考・判断・表現」の評価

課題の設定 → 情報の収集 → 整理・分析 → まとめ・表現 という探究の過程における各学習活動の目的に即して、「知識や技能」を適切に活用する姿やその過程に着目します。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

(1) 粘り強い取組を行おうとする側面

継続的に自らの問いや学びの意義を見だし、課題解決に取り組もうとする態度に表れます。

(2) 粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

他者との協働を通して進める課題解決の過程で自らの学びを振り返りながら、その後の学習活動に見通しをもって、自ら計画を立てたり、適切な方法を選択したりして取り組む姿として表れます。